## F仲間？　飲み仲間？

今期F2の**喜多須杏奈**は「スタートは無理できないけど、事故点がパンパンではないので、枠番は主張してレース頑張ります」と平和島で奮闘。予選突破はならなかったが、5日目にはまくりを決めるなど、見せ場を作った。そんな喜多須が公私ともに慕うのが岩崎芳美。「岩崎さんもこの前Fを切ってたんですが、どんだけ私のこと好きなんって思ってしまいました」と笑った。「徳島は女子も増えて、ほんと仲が良くて、みんなで頑張っています」。事故は禁物だが、徳島支部のさらなる飛躍に期待したい。

## 似た者同士？

インタビューの中で「イン戦とスタートが苦手」と課題を口にしていた**實森美祐**。あれ？　このフレーズどこかで聞いたことあるな、と思ったら、以前に取材した實森の師匠・角ひとみも「私もインで遅れちゃうから」と、同じようなことを話していた。調べてみると、直近半年間のイン1着率は實森が56・5％で、角は59％。「やっぱり師弟って似るんですかね？」と實森。ということは、どちらかが得意になると2人とも得意？　2人で一緒に克服してください！

## パリ五輪に刺激

レディースチャンピオン開幕前に、パリオリンピック観戦に現地を訪れたという**大瀧明日香**。渡辺千草や松尾夏海、水野望美、犬童千秋らと一緒だったといい「8泊で行って、バスケとか観てきました」と大盛り上がりだったそうだ。レディースチャンピオン時には、女子柔道金メダリストの角田夏美がピットを激励に訪れ、選手は写真撮影で大盛り上がり。女子アスリート同士、お互いに刺激を受けあっていた。

## 驚きのキャリア

クラフトマンシップの特集で取材をさせていただいたカメラマンの**中島さん**。カメラ歴はわずか5年とのことで、前職はなんと生命保険会社の外交員だったそう。一般的にカメラマンといえば、アシスタントとして何年も修行を積むというイメージが強いですが「やっているうちに自然に慣れていきました」と穏やかに笑う。その姿は、まさに匠の風格！

## いちゃりばちょーでー

**前川守嗣**はペラグループの先輩から、沖縄の結婚式に出てみたいから、結婚する時は結婚式を沖縄でやるようにと言われていたとか。沖縄の結婚式はとにかく出席者が多いそうで「自分の時はだいぶ削って300人くらいでしたけど、400人や500人でやる人もいます」と前川。なぜそんなに多いのかというと、親戚や友人だけでなく近所の人も呼ぶんだとか。「酔っ払った某先輩がしばらく帰ってこなかったんですけど、隣の会場のテーブルで飲んでいた」こともあったそうだ。沖縄には「いちゃりばちょーでー」という言葉があり、一度会ったら兄弟同様という意味らしい。祝う気持ちがあれば、知らない人がテーブルにいても違和感はないのかも。

## 同期飲み解禁！

「最近は飲みに行く機会が増えましたね」と話すのは**藤原碧生**。藤原がデビューした時はコロナ禍の真っ只中だったので、外食する機会が全くなかったという。だがそれも終わり、今になって〝飲みニケーション〟を満喫しているそうだ。同期の竹間隆晟や津田陸翔と飲むことが多いそうで、レースの前泊地で飲んだり、休みの日に集まったりもしているとのこと。飲んでいる時はほぼ仕事の話はしていないそうだが、それが良き気分転換となっているようだ。

## 愛が5倍！

丸亀メモリアルのオープニングセレモニーで、下関・徳山推薦の山口支部の選手4人が揃って、6月に引退した**新良一規**さんへの感謝を口にした。それを聞いていて、新良さんをインタビューした時のことを思い出した。新良さんは「子どもさんが多くて（確か5人）家族がにぎやかだ」というエピソードを耳にしていたので、それを振ると「女房に『うまく時間を5等分して世話を見てくれ』と頼んだら、『何を言っているの！愛が5倍になったわ!!』と返された。母親っていうのは強いねぇ」とニコニコ。家族にも、そして後輩たちにも優しかった新良さん。現役生活、お疲れ様でした！

## 有効期限切れ

愛知支部のリレーコラムを担当した**永田楽**。本人が語るように、食べることが大好き。今回のコラム用に写真を探していると「スマホの写真フォルダが食べ物ばかりだったので、実家のアルバムから色々引っ張り出してきました」というほど。そんな写真の中にあった「ていちゃんのエコパークキッズ参加認定証」。こちら「ボートレーサーになるまで有効」とある。選手になったことで、認定証の期限を自ら切ってしまったというのは、なんとも心が温まるエピソードだ。

Macour Coverage Memo
追配取材メモ